



新聞で  
読解力アップ!

ワークシート

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしよう。

# クマ目撃 最多276件

道北でヒグマの目撃情報が増えている。道警旭川方面本部によると、管内（上川、留萌、宗谷管内、北空知）の26日までの目撃件数は、記録がある過去10年間で最多の276件（306頭）に上り、10月に入っても減る様子はない。山の木の実の不作で、冬眠前に餌を求めて農地などへ出没していると思われる。道警旭本などは注意を呼びかけている。（山村晋）

道警旭本によると、足跡などを含むクマの目撃件数は11日に年間の最多記録だった2015年の268件（302頭）に並び、その後、記録を更新している。秋の道北ではミズナラ、ヤマブドウ、サルナシの実がクマの重要な主食。道が6日に発表した「秋の山の実なり調査」では、ミズナラの実（ドングリ）が全道的な「不作〜凶作」で、上川、留萌、宗谷管内では、ヤマブドウとサルナシも多くの地域で「不作〜凶作」となっている。調査員の一人で占冠村の鳥獣保護管理員高橋勝美さん(63)は「春先の開花時の天候が悪く、実がつかない木が多かった」と話す。

例年は、木の実がなり始める10月以降は、目撃件数が減少するが、今年10月

## 道北 木の实不作で農地に出没

道警旭本によると、道北管内（上川、留萌、宗谷管内、北空知）の26日までの目撃件数は、記録がある過去10年間で最多の276件（306頭）に上り、10月に入っても減る様子はない。山の木の実の不作で、冬眠前に餌を求めて農地などへ出没していると思われる。道警旭本などは注意を呼びかけている。（山村晋）

道警旭本によると、足跡などを含むクマの目撃件数は11日に年間の最多記録だった2015年の268件（302頭）に並び、その後、記録を更新している。秋の道北ではミズナラ、ヤマブドウ、サルナシの実がクマの重要な主食。道が6日に発表した「秋の山の実なり調査」では、ミズナラの実（ドングリ）が全道的な「不作〜凶作」で、上川、留萌、宗谷管内では、ヤマブドウとサルナシも多くの地域で「不作〜凶作」となっている。調査員の一人で占冠村の鳥獣保護管理員高橋勝美さん(63)は「春先の開花時の天候が悪く、実がつかない木が多かった」と話す。

例年は、木の実がなり始める10月以降は、目撃件数が減少するが、今年10月

ヒグマの生態に詳しい道立総合研究機構環境科学研究所センター（札幌）の間野勉・自然環境部長は「木の実が不作だとクマは行動範囲を広げて餌を探し、農作物の味を覚えて畑への侵入を繰り返すようになる」と指摘する。クマが冬眠するのは12月過ぎ。道などは、餌にならないよう農家に農作物の早期の収穫と保管を促すほか、生ごみなどを外に放置しないよう呼びかける。

道警旭本によると、足跡などを含むクマの目撃件数は11日に年間の最多記録だった2015年の268件（302頭）に並び、その後、記録を更新している。秋の道北ではミズナラ、ヤマブドウ、サルナシの実がクマの重要な主食。道が6日に発表した「秋の山の実なり調査」では、ミズナラの実（ドングリ）が全道的な「不作〜凶作」で、上川、留萌、宗谷管内では、ヤマブドウとサルナシも多くの地域で「不作〜凶作」となっている。調査員の一人で占冠村の鳥獣保護管理員高橋勝美さん(63)は「春先の開花時の天候が悪く、実がつかない木が多かった」と話す。

例年は、木の実がなり始める10月以降は、目撃件数が減少するが、今年10月

北海道新聞朝刊 地方版（旭川・上川） 2017年10月28日（土）

- (1)     の「木の实不作」について、次の①、②に答えなさい。
- ①      ヒグマが主食とする木の实にはどのようなものがありますか。
- 
- ② この年（2017年）、これらの木の实が不作となった理由として読み取れることがらを書きなさい。
- 
- (2)     とありますが、木の实がなり始めるとヒグマの目撃件数が減少するのはなぜですか。
- 
- (3)     とありますが、ヒグマがこのような行動をとることを防ぐために、道などが進めている取り組みを書きなさい。
-